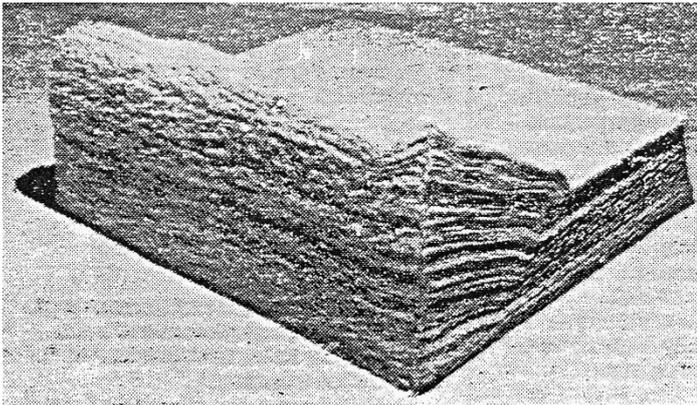


1984年5月22日

木の彫刻は自然から少し助けを得ます。



スペースギャラリーで 角永和夫の彫刻「Paper No.1 V」

文・ Diana Rico

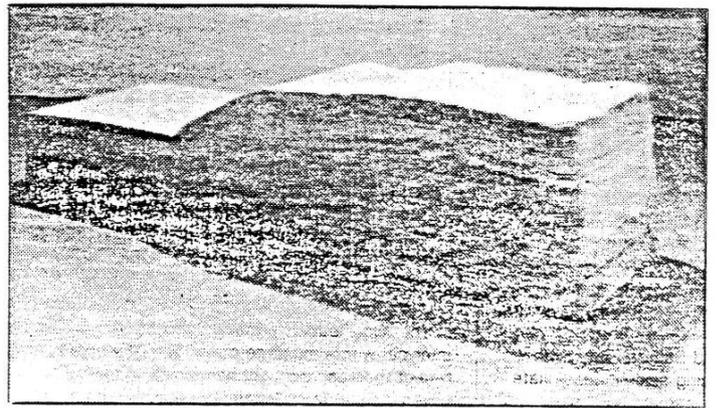
デイリーニュース・アートライター

石川県の角永和夫氏は、「私は美を創造するのではなく、素材の自然の美しさを発見する」と語っています。彼の発見のプロセスには、彼が使用する材料を使って何をするか、そして自然がそれ自体で行うために彼が残すことの両方が含まれます。38歳の芸術家が最もよく知られている木の彫刻。彼は木のセクションを紙で薄くスライスするか、スコアを付けて分割し、これらのパーツを元の自然な順序で再組み立てしました。もう一度全体として、作品は大気条件に応じてカール、反り、ひび割れを許されました-アーティストが彫刻の不可欠な部分と見なす活動。ハリウッドのスペースギャラリーで、本日オープンするのは「紙の彫刻」です。これは、角永のアートにおける人工のプロセスと自然なプロセスの相互作用に対する懸念を再び反映した、約20点の作品の展示です。ざらざらしたシート状の層を持つこれらの作品の質感は、彼の木の彫刻を彷彿とさせます。いくつかは、湿気にさらされることでカールす

る、製本されていない本に似ています。他のものは最初に部分的に折りたたまれ、次に自然な変形に任せられました。自然の変化の過程の一部としての光と影の探求も、ここで角永が材料を選択することによって可能になります。

かつて、角永は、彼の人生の中で、粘土やおそらく石を含む多くの天然素材を調査することへの希望を表明しました。彼の紙と木の彫刻では、彼はすでに持っています コンセプト、クラフト、自然が出会ったときに何が起こり得るかを示しました。

角永は、カリフォルニア、オランダ、スウェーデン、東京、京都での個展をはじめ、国内外で展覧会を開催しています。彼の作品は、第10回 ジャパン・アート・フェスティバルと、第11回 日本現代美術展で賞を受賞しました。



彼の彫刻は、メキシコシティの国立近代美術館とアムステルダム国立クレラー・ミュラー美術館の公開コレクションにあります。

角永の「紙の彫刻」は6月23日まで展示されています。

(213) 461.8166 に電話してください。